



確かで豊かな学びをめざして

先進地(秋田県)視察研修報告会(1/6)



“全国学力・学習状況調査”において、上位を保ち続ける秋田県に学び、それを大阪狭山市の教育に活かしてもらいたい！…そんな思いで小・中6人の先生が、仁賀保市の教育から学んだ内容を参加者60人を前に報告しました。

(以下は凝縮した要諦のみを記しています)

■一致して取り組むことで“成果”を蓄積させています

◎【めあて(疑問形)--自力解決--グループで学び合い--本時のポイント整理--活用『今日の一問』--振り返り】の学習過程や授業ルールを、学年・教科・校種を超えて取り組むことで“学ぶ力”の蓄積が図られている。

◎小・中とも一致して「今日の一問」を大変大事にしている。文章で説明を求める一問で“理解度”を見極めると同時に“活用力”を養っている。

◎学習過程に対応し、復習にも役立つ見開き2ページの「ノートづくり」を一致して指導している。

◎要点を絞り「短く・丁寧」な言葉で授業を進める。

◎前時までの学習活動や学習計画の掲示、学習への意欲・頑張り・習慣作りを共有し合える掲示、“算数音読”用プリントなどを統一して教室・廊下・掲示コーナーに掲示している。

■取り組みの徹底が“学び”を定着させています

◎周到な計画、無理なくやりきる為の時間確保、必要な準備物、簡潔で無駄のない学習活動、焦点化した教師の働き掛け等々が徹底されている。

■P(計画)・D(実施)・C(評価)・A(改善)サイクルで好循環を

◎取り組みの検証軸として“学びと意識”の実態を絶えず把握し PDCA サイクルで進めている。客観的なデータを得るためにアンケートやテスト評価等の頻度も種類も多い。

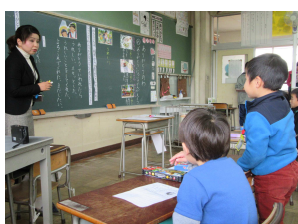
「確かで豊かな学び」を築く上で非常に有効で密度の濃い報告内容でした。

大阪府道徳教育推進事業に係る公開授業

大阪府より道徳教育推進事業の指定を受け、南第三小学校が公開授業を行いました。平成30年度より(小学校)“特別の教科”に位置付けられる道徳に関心が集まる中、多数の参観者は熱心にメモをとっていました。

【1月13日(金)】授業者：中辻 万起先生

1年 道徳 主題名 気持ちを伝える「ありがとう」



授業の様子「ありがとう」が互いの気遣いの言葉であることに気づき、進んで感謝の気持ちを伝えようとする道徳的実践意欲・態度を育てることをお話が次々につながります。をねらいに行われました。

【先生】「ありがとう」って、どんな言葉ですか。

【児童】「自分のものを取ってくれたり、プレゼントもらってありがとう」

【先生】今日は「ありがとう」について考えましょう。「ゆき」さんの気持ちを考えながら読んでください。

(資料「ありがとうのわ」の範読) (挿絵の掲示)

【発問1】ゆきさんが「ありがとう」と言った時、どんな気持ちだったでしょう。

【児童】「うれしかった」「車を止めてくれてありがとう」「椅子をあけてくれてうれしかった」

【発問2 = 中心発問】先生から「ありがとう」と言われて、ゆきさんがにっこり笑った時、どんな気持ちだったでしょう。

(児童：ワークシートに書き進めていく)

【児童】「ありがとうと言われたらうれしい気持ちになる」「喜んでくれて良かった、またしたいな」「スッキリした気持ち」「いろんな人からうれしいことをしてもらったので、先生にもしてあげた」

(教師：追発問＝それは誰かな？どんな時？どうして？を問い掛けながら、児童の発言をつないでいく)



【補助発問：補助者(資料に登場する先生)に関わる発問】

じゃあ、ありがとうって言った先生はどんな気持ちかな。

【児童】「ゆきちゃんと同じ気持ちになる」「先生もうれしい」「みーんなハッピー」

ペアで仲良く学び合います。【発問3】今までに誰かに「ありがとう」と言ったり、言われたりしたことがありますか。それはどんな時ですか。お隣の人と話し合ってください。(児童：ペアトーク)

【児童】「縄跳びが目に入った時に大丈夫？ときいてくれて先生の所へつれていってくれました。その時『ありがとう』と言いました」

「運動場で転んだ時、保健室へ行こうか？と言ってくれて『ありがとう』を言ったらうれしかったです」「お風呂掃除を手伝って、お母さんから何度も『ありがとう』って言ってもらった」

【振り返り】ありがとうを言った人もうれしいし、言われた人もうれしいんですね。勉強で分かったことや思ったことを書きましょう。

【児童】「ありがとうは良い言葉だと思います、お友だちがいい気持ちになるから」「ありがとうは、言った方も言われた方もいい気持ちになるのがわかりました」

授業参観の後、講演会においても多くのことを学ぶことが出来ました。

講演 道徳の評価と授業づくり

四天王寺大学 杉中 康平 准教授



★道徳科の特質を踏まえた評価のあり方…子どもたちの学びをしっかり応援する視点が評価の基本。

- ①学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握します。
- ②個々の内容項目毎でなく大きなまとまりの中で評価します。
- ③点数での評価でなく、個人内評価で自らの成長を実感し意欲の向上につながるような記述式で進めます。

★継続的な把握のために…ポートフォリオ(学びの記録の綴り)や道徳ノートの活用を通して、連続した道徳的な学びの見取りを。

★日常生活とつながる評価を…道徳科での学びは理解で終わらず「生活」の中での実践につながるよう“励まし”の視点での評価を。

★授業づくりで大事なこと…友情・正直・希望等の内容項目の理解をもとに、多面的・多角的に考え、自分の生き方に引きつけ自分を深く見つめさせること＝道徳的価値の自覚を促す授業づくりを。

★ Before-After で考える授業を…変化する前と後の主人公をしっかり押さえ、中心発問以降の After に比重を置いた授業を。導入-範読-内容理解の学習活動は精選を。

★基本となる発問…

- ◎ Before：主人公の道徳的課題を明らかにする発問「なぜ～しているの」「～してどう思ったの」「～してどんな気持ちなの」
 - ◎ After：中心発問(主人公の気付きに迫る発問)「何に気付いたの」「なぜ気付いたの」「どう変わったの」
 - ◎内容項目によってはテーマ発問：「〇〇って何だろう」
 - ◎必要に応じて助言者を活かした補助発問
 - ◎子どもの発言をつなぎ・深める追発問
- このような発問を考え、子どもの道徳的な学びが深まるように授業をつくっていきます。

南中学校 まるごと授業公開 (1/19)



学び合い伝え合い、共に学ぶ喜びを味わいます。



ICT の積極的な活用も学習意欲を高めます。

授業に向き合う子どもたちの真剣な姿、グループで学び合い伝え合う子どもたちの笑顔…どの教室からも、意欲的に学ぶ姿とそれを引き出す教師の熱意が伝わってきました。

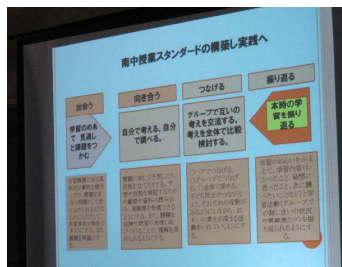
疑問形の“学習のめあて”が全教室に示されています。「出合う=向き合う=つながる=振り返る」の構成で全教科の授業が展開されます。授業の中



でのペア学習・グループ学習など“学び合う”学習

まるごと授業公開に向けた準備や運営も中学校区で協力しました。お礼を込め挨拶。

形態の明確な位置付け、ICT の積極的活用…等々、“授業で学校を変える”を大きなテーマに進めてきた実践研究が、南中スタンダードとして生徒にも教職員にも定着しているように思いました。



取組内容・成果・課題を保・幼・小・中間で理解し合います。

また、全体会での「南中学校の取組みと課題」についての報告が、保幼小中間の相互理解を促し、分科会での交流・討議と相まって「中学校区全体で子どもを育てる意識」を高め合っているのだと思いました。

授業改善への取組みを初め、分科会構成に至るまでマンネリに陥らないような工夫・配慮・姿勢からは、PDCA サイクルで運営される中学校区の姿を強く感じました。



湖南市の先生も分科会に参加されました。

最後に“アクティブ・ラーニング”についての講演会が行われました。【講演会の概要は次ページ※に記しています】



地域から学んだ内容を伝え合
い、学び合います。



4年生 習熟度別3分割授業。
学ぶ楽しさを共に味わいます。

大阪府よりアクティブ・ラーニング推進事業の指定を受け、2年間にわたり学校一丸となり実践・研究を進めている南第一小学校が、全学級の公開授業と実践報告会を開きました。

平成32年度より順次実施される新学習指導要領の最大の関心事の一つが“主体的な学び・対話的な学び・深い学び”で表されるアクティブ・ラーニング（AL）です。今回の実践報告会には、本市・府内を合わせ70校以上から参加され、最後の「AL についての講演会」までを実に真剣に臨まれていました。

全学級の公開授業…授業を参観する先生たちが手にした“学習指導案”には統一された一連の学習過程の中に、AL が適切に位置づけられています。そして、この指導案に沿った授業が“主体的・協働的な学び”へと結び付いていきました。AL の視点で授業改善を進めてきた2年間の成果が、日常の授業に活かされているのを授業に向かう児童たちの活動・意欲・表情などから知ることができました。

実践報告会…報告の中で、授業改善への取組みが成果を挙げているポイントが示されていました。特に「児童の学習実態」を客観的データで捉え、絶えず児童の姿を検証軸にしながら PDCA



切磋琢磨し学び合う先生た
ちの姿勢に大きな拍手が！

サイクルで進める教職員の謙虚さです。そして、気持ちの揃った教職員がみんなで力を合わせ取り組むことの重要性・有効性です。“学習過程・ノート指導・UD(ユニバーサルデザイン)”などを南一小スタンダードとして一致して推進する教職員…ここには、教職員がつながり情報を共有し合える“AL 通信”などの取組みがあったことも見逃せません。

関西大学 若槻 健 准教授

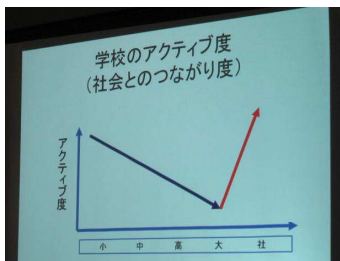


南中 まるごと公開授業にて



南一小 AL 実践報告会にて

- 現在の職業の 40~50% が AI やロボットに代替されると予想される社会で「生きる力」は一方的で知識伝達型授業では育ちににくいとされます。
- 新センター試験(2020 年度～)では、正確な知識の多さを問う暗記型試験から“様々な情報から考え・判断し・記述する”内容に変わります。知識伝達型の講義を聴く＝受動的な学びでは、子どもたちへの『進路保障』は難しくなると危惧されます。
- AL の観点から3つの力を育む授業づくりを
 - ①何を知り何ができるのか＝知識・技能の習得
 - ②知っていること・出来ることをどう活用するのか＝思考力・判断力・表現力の育成
 - ③能力や資質をどこに向かって働かせるのか＝社会や世界とつながる力の育成
- 理科の授業で“静電気の実験”が行われていました。静電気を学ぶのですが、実際の社会の中で静電気がどのように活用され、どのようにつながっているのかを授業の中に取り込むことで、知識理解型の授業であっても AL の側面を出すことが出来ると思われます。イベント的な AL でなく、日々の授業の中で社会とのつながりや仲間との学び合いを取り入れることも考えられます。

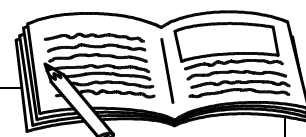


AL の視点で進める授業の積み重ねが学ぶ力につながります。

- 今後「主体的・対話的・深い学び」が重視されることは決まっています。AL の善し悪しでなく、どうすれば成果を上げていけるかを考えないと、子どもがこれから成長していく上

で困ってしまいます。

- 学力に課題のある子どもたちこそ、知識定着への様々な取組みと AL とを組み合わせることで学ぶ意欲を高め学ぶ喜びにつながると期待できます。



編集後記：

学校園と課題を共有し、思いを一つにして歩み、支援していく……本市教育委員会事務局 学校教育グループは常にこのスタンスに立ち「教育活動の推進にささやかでも貢献できれば」の気持ちで一号一号を送り出しています。

そして、何にもまして命輝かせる子どもたちに軸足を置き——“この子らのために” 取り組む先生たちを、教職員が知恵と力を合わせて進める実践・研究を、様々な研修会の内容を、準備が急がれる教育の大きな潮流等々を取り上げてきました。

呟啄の発行を通して、大阪狭山市の教育が健やかな子どもたちの育成に大きく寄与していること、課題解決に向け各学校園が一致して取り組み“力のある学校園”づくりを進めていることを実感しています。そして、大阪狭山市の教育に自信と誇りと喜びを抱きながら、平成28年度の最終号を届けることが出来ました。この一年間、各学校園にはご協力いただき、心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

——九州の炭坑町で育った先輩が何度も話してくれました。

「遠くを照らすライトと足元を照らすカンテラがなければ、怖くて炭坑夫は働けない。我々も同じ。目標や願いを明確に持つこと。そして、日々の営みが間違いなく目標に向かっているかを怠りなく確認し進むこと。この2つがあってこそ、子どもたちは迷うことなく安心して学級や学校で学んでいけるんだ。」……今も胸に刻まれている言葉です。

遠くを照らすライトと足元を照らすカンテラのように——今後とも、教育を巡る大きな潮流にライトを当てることで確かな“進路”が照らし出されます。日々の学校園のさまざまな活動にカンテラを当てることで健やかに育つ子どもたちの姿や、情熱と使命感を持って取り組む先生たちの姿が照らし出されます。

これからも、さやまの学校園が輝かしいステージになればこの上ない幸いです。(T.H)

